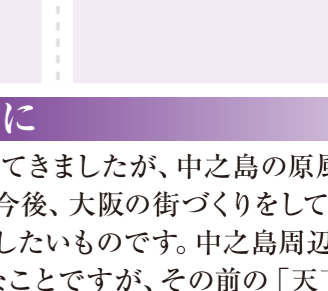
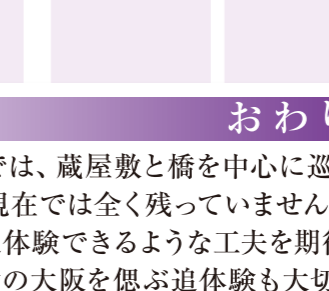
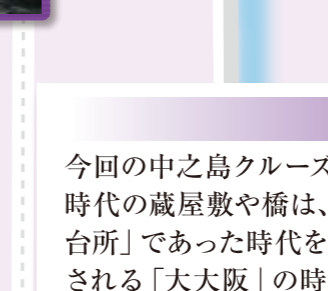
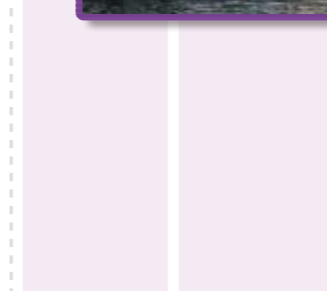
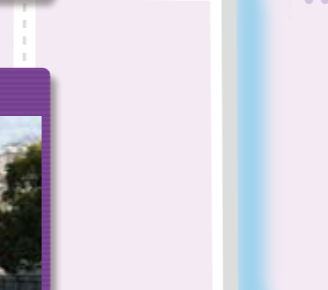
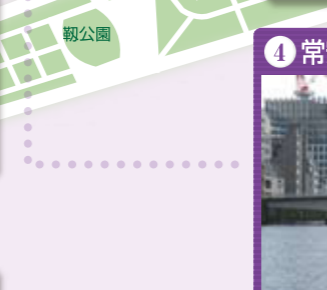
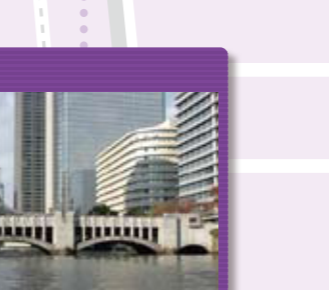


水都大阪再発見クルーズ ① 天下の台所～蔵屋敷と橋～

はじめに

江戸時代の中之島周辺は、蔵屋敷の町でした。全国の各藩は、ここに年貢米や特産物を運び込み、相場を見ながら販売したのです。江戸時代後期の蔵屋敷は、中之島の中だけで40余りを数え、その周辺地区も加えると100近い蔵屋敷が並んでいました。そして中之島には船場や天満との間に10本以上の橋が架けられ、大阪の中心地として繁栄したのです。その橋は、近代になると鉄橋に架け替えられますが、大阪の橋は建築家がデザインを指導したものが多く、質の高い装飾が見られます。今日のクルーズでは、そのような蔵屋敷と橋を中心に案内いたします。



おわりに

今回の中之島クルーズでは、蔵屋敷と橋を中心に巡ってきましたが、中之島の原風景ともいえる江戸時代の蔵屋敷や橋は、現在では全く残っていません。今後、大阪の街づくりをしていく中で、「天下の台所」であった時代を追体験できるような工夫を期待したいものです。中之島周辺の近代建築に代表される「大大阪」の時代の大阪を偲ぶ追体験も大切なことですが、その前の「天下の台所」であった江戸時代の大阪の繁栄を体感できるような整備も重要な課題だと思います。